

# 医学博士監修の持続型水素サプリ

開発期間

65年

開発とは？

何がすごいの？

## 佐藤一男博士

S-on回復システム

細胞のDNAは、恒常性といって人体に異常が生じても元に戻す仕組みが備わっています。その恒常性にスイッチONすることで薬に頼らずに健康を維持することができる。65年の歳月をかけて開発した水素サプリは、その維持する力を高めてくれます。

# 佐藤一男博士

の生い立ち



小学4年生！

白い粉（ゼオライト）で  
アヒルの糞の臭いが消えた！？

## なぜ、ゼオライトに興味をもったのか？ 幼少期の佐藤少年のキッカケについて

小学生

「アヒルの糞の臭いが消えた」

私は宮城県仙台市の生まれで、3歳のとき同じ宮城県の塩釜市に移住しました。屋敷の近くに川が流れていて、沼もありました。家ではその沼でアヒルを飼っていて、夕方になると、そのアヒルは沼から上がり、屋敷の庭を横切って自分の小屋に帰っていくのです。

そのとき、アヒルがよく庭に糞をしますが、その糞に勝手口にあるカマドの灰をかけて歩くのが、小学生のころの私の仕事でした。

十能（じゅうのう）という炭火を運ぶ道具で灰をすくって、アヒルの糞をかくすためにまくのです。ところが、遊び盛りの私には、それはおっくうな役目でした。カマドまで灰をとりに行くのが面倒くさかったので、夏休み中のある日、身近にあった白い石の粉を灰のかわりにまいて、ごまかしたのです。

ちょうど、壊れた石塀を修理するために、石工がきていて、石を削った粉が庭にたまっていたので、それを灰のかわりに使ったわけでありませぬ。

2、3日後に雨が降り出しました。ふだんは、雨が降ると灰が流されてしまい、アヒルの糞が臭うので、雨があがると、また灰をかけなければなりません。ところが、このときは、雨があがって天気になったので、また灰をかけなければ、と思って見に行くと、石の粉はほとんど流れていなかったのです。あれ？と近くに寄って臭いを嗅いでみましたが、なんと、まったく臭いがしなかったのです。

おかしいな？と感じた私は、木の枝でアヒルの糞を突っついて、顔を近づけてみました。が、やはりいつもの臭いはありませんでした。

《不思議だな、なぜだろう？》

小学四年生の私は首をかしげました。

こんな馬鹿な語があるか私は当時から好奇心の強い少年でした。

私は自分の発見に興奮を覚えました

**アヒルの糞の臭いがどうして消えたのか、不思議でなりません。  
よし、この石の粉（ゼオライト）をほかのものにまいてみよう、**

という気になり、十能でそれをブリキのバケツに入れ、自宅の便所のなかにまいてみました。

当時は、どこの家も汲み取り式の便所でしたから、臭いがかなり強かったのですが、石の粉をまいた翌日は、その臭いが弱くなっているような気がしました。

つづいて、ニワトリ小屋にもまいてみました。やはり、臭いが薄くなったように感じられました。私は自分の発見に興奮を覚えました。石の粉をアヒルの糞にかけたことも、便所にまいたことも、私は父にかくしておりました。

カマド灰をまく仕事をなまけたとって叱られる、と思っていたからです。が、ニワトリ小屋の臭いが弱まったのがわかったとたん、かくしておけなくなりしました。私は父にそれらのことを告白しました。

父は初め、私の言葉を信用しませんでした。いつになく強情を張る息子の態度に何かを感じたのでしょうか。

ニワトリ小屋までついてきて、なかをのぞきこむと、「たしかに、この暑さのなかでは臭いが少ない。おまえ、これから毎日、石の粉を臭いのするところへまいてみろ。

そして、それを日記に書いて、二学期に先生に見てもらえ」

ふだんは小言の多い、厳格な父でしたが、このときばかりは、なぜか、おだやかな表情で私を励ましてくれたのでした。小学校の担任の先生に心はずませながらノートを提出したが・・・厳格な父が、私を励ましてくれたことで物心ついて初めて父にほめられたような気がして、私は有頂天になりました。夏休み中、毎日、弟にも石削りを手伝わせて粉を集め、アヒルの糞や便所やニワトリ小屋にそれをまきました。

天気のよい日、雨降りの日、暑い日、それぞれの臭いのぐあいを、ノートに記録しました。これが私とゼオライトとの出会いでした。

もちろん、そのときは、父も私も、その石がゼオライトであることなど知りませんでした。

けれども、私のその努力は実りませんでした。

二学期になって、そのノートを心はずませながら先生に提出したところ、

「こんな馬鹿なことがあるか。おまえの気のせいだろう」

と、頭から認めようとはしなかったのです。

私は子供心にも、口惜しくてなりませんでした。

軍隊帰りのその先生は、  
間もなく仙台の小学校へ転任になりましたので、  
私はそこまで追いかけて行って、説得しようとしたが、  
相手にされませんでした。

後任の先生の態度も同じでした。

そうして学校の先生に否定されたので、以後は記録するのは中止しましたが、  
家庭では、カマドの灰のかわりに石の粉をまく仕事は、その後も私の日課  
となりました。

誰も知らないゼオライト

小学校の先生は信じてくれなかったけれど、私は心の中で、そんなことは絶対  
にない、カマドの灰よりこの石の粉のほうが臭い消しに効果があるのは確  
かだ、と信じておりました。

**こんな小学生でした。**

**中学生になってからも、白い石粉に夢中！**

**中学生**

中学生になってからも、私は石の粉が臭いを消す、という発見を、諦めるこ  
とができませんでした。

中学二年の夏、

私は母が屋敷内の菜園で、ニラにカマドの灰をかけているのを見ていて、  
思わずはっとしました。当時はどこの家でもやっていたのですが、ニラを刈  
り取ったあとの切り株に灰をかけておくと、ニラがまた大きくなるのです。

灰の代わりに石の粉をかけたら、どうであろうか・・・？

頭のなかにそんな思い付きがひらめいたのでした。（ピンッ！）  
私はさっそく、刈り取ったニラのある場所へいき、一方のうねにはカマドの  
灰を、もう一方のうねには十分に乾燥させた石の粉をかけて、3週間ほど、  
両方のうねのニラの生育ぶりを観察してみました。

すると、どうでしょう。

石の粉をまいたニラのほうが、  
灰をまいたニラよりも、はるかに生長が早いではありませんか。

《この石の粉は臭いばかりではない。植物の生育にも効果があるに違いない》  
私は新たな発見に胸をおどらせて、中学校の理科の先生に、そのことを話しました。が、返事は小学校の先生と同じでした。（残念）

「凝灰岩が物の貯蔵に役立つのは事実だ。  
だから、昔から石造りの蔵が建てられている。しかし、その石の粉が、臭いを消したり、植物の生長を助けるとは信じられないし、もし、おまえのいうようなことがあったとしても、それは何か別の理由だろう」

理科の先生は、そうやって私の主張を否定しました。

私はがっかりしましたが、それでも石の粉の効用を疑いませんでした。

ニワトリ小屋にまいたり、自宅の便所にまいたり、ニラのうねで実験してみたりして、石の粉の効用テストを続けました。

そういう点では、

私は生まれつき執念深い性質だったようです。

＜人間が食べても毒ではあるまい＞

高校に入学したのは昭和28年ですが、  
私はその後も石の粉にこだわり続けました。

高校生

ある日、臭い消しのためにまいた石の粉を、  
ニワトリがついばんでいるのを発見しました。

ニワトリは消化のための砂のうという袋を体内にもっていて、  
小石などを飲み込んでおります。

そのことは知っておりましたが、そのとき私がひっかかったのは、  
消化のためというよりも、餌として食べているように感じられたからです。  
注意して見ると、確かにニワトリはおいしそうに食べているのでした。

## 《ニワトリが食べるとしたら、犬はどうだろうか》

私は想像力をふくらませました。

当時、犬の食事は残飯でした。

家人が食べ残したご飯に汁をかけ、魚の骨などをまぜたものを与えておりました。現在のようにペットフードなどはまだなかったのです。

私はさっそく、残飯に石の粉をまぜて飼い犬に与えてみました。すると犬は、なんのためらいもなく、むしろおいしそうに、一粒も残さずにその餌を食べたのでした。

## 《犬が食べるのなら、人間が食べても毒ではあるまい》

私はそう考えました。といっても、食事のときに、家族の前で食べる度胸はありません。

もちろん、

弟や友達にこっそり食べさせることもできません。

私はおひつ（ご飯を入れる木製の容器）のなかの残飯に石の粉をまぜておにぎりにし、こっそり自室で試食してみました。

大げさないい方をするなら、人体実験を行ったわけであります。

石の粉といっても、小刀で削って金槌でくだいただけのものですから、少しザラザラしていて、ニワトリや犬のようにおいしそうに食べるというわけにはいきませんが、とくに味がまずいとは思いませんでした。

## 私は一ヵ月ぐらい、その人体実験を続けました。

効果のほどはわかりませんでした。べつに下痢や腹痛はおこらず、気のせいか、体調が少しよくなったように感じました。

《人間にも害のないことは確かだ。ひょっとしたら、お婆さんが飲んでいる煎じ薬の代りになるのでは？》

私はそんなことを考えるようになりました。

そうすると、もう秘密にしておくことはできません。高校の化学の川上先生を訪れて、自分の体験を内心得意になって聞いていただきました。

しかし、このときも、期待は完全に裏切られたのであります。

「ずいぶん無茶なことをやるな。でも、それはきみの勘違いだよ。それらの現象が事実であるならば、大学などでとっくに学術研究をやっているはずだ。その辺の岩が薬になるなんて、そんな話は聞いたことがない。きみの妄想だと思うね！」

川上先生の返事はそっけないものでした。

先生は東北大学の出身で、当時は私が通っていた宮城県立塩釜高校に勤務しておりましたが、現在は退職されて、故郷の埼玉県に居住しておられます。

最近、私が東京で行った講演の会場へひょっこり訪ねてこられ、何十年ぶりかで再会いたしました。

そのとき、先生は開口一番、こんなことを申されました。

「いや、その節は申し訳ないことをした。なにせあの時分、わたしはゼオライトというものを全然知らなかった。凝灰岩とか、大谷石とか、そんな名前は知っていたが、ゼオライトなんて、名前も知らなかったんだよ…：。」

無理もないことなのです。当時の日本では、ごく一部の研究者以外、ゼオライトは名前も知られていなかったのであります。

かくいう私自身、小学生のころから興味をもち、自ら人体実験までしておりながら、それがゼオライトであるとは、想像もしていなかったのです。

## 水への反応に着目

私の白い粉（凝灰岩の粉）の研究は、高校卒業まぎわになって、一つの飛躍を見せました。それまでは、原石の粉を使っていた実験において、原石の粒を焼くことを思い付いたのです。

原石の粉を乾燥させると効果があがることがわかったので、それなら焼いたほうが、さらによく乾燥し、効果も大きいのでは?と考えたのがきっかけでした。

原石をくだいて直径五ミリほどの粒にしたものを、鉄の鍋で焼くのですが、そうすると家ではできません。高校の化学実験室に鍋を持ち込んで行ったのですが、焼くと石の粒は茶色になります。

大きさからいって、そのままではニワトリや犬に食べさせるのは無理ですから、効能のほどはわかりません。

その現物をながめているうちに、私はふと、これを水に入れてみたらどうなるだろうか、と思ったのでした。

さっそく実験してみました。  
石のほうはどうにもなりませんでしたが、水のほうに変化が occurred。

水道水がなんともまろやかな味になったばかりか、それを花瓶に入れると、切花が長持ちするのです。

水道水を入れた花瓶のほうは、2、3週間すると水が腐って、壕の内側や花の茎がぬるぬるになりますが、石の粒を入れたほうは、そのぬるぬるがほとんどないのです。

〈水が腐らない。水質になんらかめ変化が現れたのだ?〉  
私にとっては大きな発見でした。

そんな実験をしているうちに、高校卒業のときがやってきました。  
そして

**私はためらうことなく、東北大学理学部へ進学を決めました。**

## 東北大学理学部へ進学— < 1 >

### 私は東北大学理学部へ進学しました。



もちろん、その不思議な能力をもつ石をもっと専門的に勉強してみたかったからです。ですが、大学へ進んだからといって、すぐに専門的な研究ができるわけではありません。

現在の教育制度についてはよくわかりませんが、当時の大学では、初めての2年間は、外国語などの多い教養課程の授業を受けることになっておりました。

もちろん、凝灰岩を研究するグループなどはありません。

私は物理学の増沢教授を訪ねて、これまで自分がやってきた実験のこと、焼いた石を入れた水が腐らないこと、この石はきっと人間の生活に役立つと思われることなどを語り、教えを乞いました。ここでもまた、私は厚い壁にぶち当たりました。

「そんな石があるなら、大学の専門家がすでに研究をしているはずだよ。それにきみ、水は安定物質だから、そんなに簡単に水質を変えることなど不可能だよ」増沢教授は、高校の川上先生と同じことをいって、私の主張を受け入れようとはしませんでした。

大学では、石の研究も、水の研究もできそうもなかったので、私は相変わらず、自宅でこつこつとニワトリや犬や野菜などを使って、自己流の研究を続けるしかありませんでした。

ニワトリや犬には、粉末にして餌にまぜて与えました。

ひよこに与えると生長が早く、成鳥に与えると味のよい卵を産みました。

また、

菜園のナスやニラには、粒状の石を入れてつくった水をまきましたし、自分もその水を飲みました。体調がよく、風邪をひかなくなりました。

《この水が、動物や植物の生命力になんらかの作用をしていることは確かだ。それがなぜかを研究してみたい》

私はまたしても、新たな好奇心のとりこになっておりました。

## 東北大学理学部へ進学—医学部<2>

《この水が、動物や植物の生命力になんらかの作用をしていることは確かだ。それがなぜかを研究してみたい》私はまたしても、新たな好奇心のとりこになっておりました。

### 羊水との出会い

新たな研究欲にとりつかれた私は、高校の川上先生を訪ねて、当面どうしたらいいかを相談しました。

「きみがそう信じるのなら、自分で確かめるしかあるまい。医学部へ編入して、生理学を勉強してはどうかね」川上先生のそのひと言が、私に医学部3年への編入を決意させました。

当時の東北大学では、医学部への編入は容易ではありませんでした。編入試験を何人受けたかは覚えておりませんが、許可されたのは二人だけで、私は運よくそのなかに入っておりました。.'

医学部で学んだ生物学や、その一分野である生理学は、私の知識に大きな広がりを与えてくれました。とりわけ生理学は、生体のさまざまな器官や細胞の機能を知るうえで、たいへんに役立ちました。

しかしながら、

**生体と水との関係については、医学部ではほとんど勉強できませんでした。**

なにせ現代医学は対症療法が主体ですから、水の研究など必要ないのです。私は止むなく、図書館に通って水の文献を探してみましたが、それがまた、意外に少なかったのであります。

当時はまだ、

NMR分光法（核磁気共鳴装置）などはありませんでしたから、水の研究は文献にたよるしかなかったのですが、それがさっぱりだったのです。

一冊だけ、大阪大学の教授が水のことをこまかく書いた研究書がありましたので、それを借りて熱心に読みました。

また、漢方の本や、貝原益軒の「養生訓」など、水のことを書いてある古書を探して、読みあさりしました。

そんな状況のなかで、唯一、私をひきつけたのは、  
**生命の誕生と羊水の研究**でした。

**羊水が、ほとんど有機分を含んでおらず、カルシウム、カリウム、マグネシウム、鉄などのイオンが成分組織になっていることを知り、私は非常に心を動かされました。**

私は羊水の研究に没頭しました。

マウスやラットなどの羊水や、付属病院産婦人科から人間の羊水を入手して研究し、それが人間にとってもっとも理想的な還元イオン水であることをつきとめました。

そして、

羊水がアルカリ性のときは元気な赤ちゃんが生まれ、酸性に傾くと死産することに着目し、究極の生命ともいえる羊水に近い成分の水を、なんとかして水道水から生成できないものか、と思案するようになりました。

すると、

自然に脳裏に浮かんできたのは、例の凝灰岩（ゼオライト）のことでした。

とくに、原石を粒にして焼いた茶色の石を入れた水が、2、3週間経っても腐らなかったことが、羊水に近い還元イオン水をつくるための、何かのヒントになるような気がしてきたのでした。

《もう一度、あの石の研究を本格的にやってみよう》

私はそう思って、すでにインターンの段階に入っていた医学部から、  
**昭和37年4月に理学部4年へ再編入しました。**

理学部へ戻った私は、増沢教授に会って、医学部での勉強経過や、理学部へ戻った理由などを、こまかくお話ししました。

「きみのいうとおりだとすれば、確かにすごいことだ。  
きみがそこまで腹を据えたのなら、及ばずながら、わたしも応援しよう」

と約束してくださいました。

実際、増沢先生は、自ら文献を調べられて、間もなく、私が名前も知らずに研究していた岩石がゼオライト（緑色凝灰岩）であり、スウェーデンの鉱物学者バーラーが世界で初めて研究をはじめ、日本では明治41年に紹介されている、といったゼオライトの歴史など、たくさんの知識を授けてくれました。

また、

当時、世界のゼオライト研究ではアメリカが群を抜いていることを知らせてくださり、

「これを参考にするがよい」  
と、アメリカのモービル石油中央研究所がまとめた、ゼオライト研究の論文を私に貸してくださいました。

**こうして、将来にはっきりした目的をもつことができた私は、翌昭和38年、不足していた単位を一年足らずですべて取得して、東北大学理学部を卒業いたしました。**

## 馬鹿呼ばわりされながら試行錯誤

大学卒業後も、私が就職せずにゼオライトの研究を続けるらしい、とわかったとき、両親はもとより、親戚の者までが、声をそろえて反対しました。

ある程度は予想していたのですが、予想以上の反対に出会って、たじたじとなりましたが、私の信念は、それによって変わることはありませんでした。

子供の将来を心配しない親はありません。25歳の私にも、何かわけのわからない石ころの研究にのめり込んでいく息子の行く末を心配している肉親の気持は、それなりに理解できました。

それである日、増沢教授の研究室へ父を連れていき、先生の口から、ゼオライト研究の重要性について話してもらいました。

先生は、ゼオライトがどんな鉱物であるか、アメリカではどんな研究が行われているか、などを説明されて、将来性のある分野であることを語ってくださいました。

大学教授の意見ですから、父も正面から反対できません。暗黙の了解をとりつけたかっこうになり、**私はようやく、自宅の物置を研究室に改造して、ゼオライトの研究に専念できるようになりました。**

**医学部での羊水研究をきっかけ**に、人体の水は健康上、大変重要であり更に調べてみたかったのですが、細胞の水の生理代謝を教える学部が日本にはありません。そこで調べてみたらアメリカのシカゴ大学で体内の水代謝の講義があることを知りました。

留学したかったのですが、親にもいいにくかったので渡米する資金を貯める目的で25歳で秋田中央病院（現 秋田大学医学部）の外来内科で1年半勤め**27歳でシカゴ大学に1年間、内科生理代謝医学について留学**してきました。

このアメリカの生理代謝の内容は、本当に納得でき素晴らしかったです。血液は動物の主要な体液で、全身の細胞に栄養分や酸素を運搬したり二酸化炭素や老廃物を運び出すための媒体です。ヒトの血液量は体重のおよそ1/13（男性で約8%、女性で約7%）であり、体重70kgの場合は、約5kgが血液の重さとなります。医学的に血液と組織液の区別はなく、体液はすべて血液と見なして良い、となっています。

**人体の約60～70%を占めている生体水は、細胞内液（75%）と細胞外液（25%）に大別できます。**

細胞外液とは赤血球、白血球、血漿などの細胞質間液のことをいいます。人体における水の総量は年齢とともに減少しています。これは、細胞内液が減少しているのです。加齢とともに細胞内液が作れなくなることが原因です。**細胞内液が減少するとミトコンドリアのATP合成やタンパク質の分解、合成が不調になり、細胞内の生命活動に支障をきたし、ガンや免疫病になりやすくなります。**

細胞内液は、生命の水であり、貴重品なのです。

そして、その結果、天然ゼオライトが、自分の想像を越えた奥の深い鉱物であることに、ようやく気付いたのです。

## 大学卒業後、いつしか3年余りが経っておりました。

本格的な熱処理研究に着手天然ゼオライトを焼いて能力を高めるということは、粒状にしたものを鉄鍋で焼けばよい、といった簡単なものではありませんでした。

そのことに気付いた私は、

**昭和41年春ごろ、宮城県工業試験場に頼み込んで、電気炉使用の本格的な熱処理研究**を始めました。

天然ゼオライトの格段に能力アップの方法とは当時は、「ゼオライトは熱処理ができない」というのが定説だったようです。

けれども、私はついに、その不可能といわれた方法を発見しました。それは文字どおり、天の啓示といってもいいようなひらめきでした。

ゼオライトにカルシウムとか、カリウムといった陽イオンを持たせて構造を丈夫にし、それから熱処理をすると、蜂の巣状の構造を壊さずに格子水を除くことができる、ということに気付いたのでした。

私は天然ゼオライトの粉にカルシウムをまぜて、実験を繰り返しました。

それもすぐに成功したわけではありません。温度と時間の関係がむずかしいのです。

最初に低温で3時間、徐々に温度をあげて600度を越えた段階で、問題の格子水は抜けますが、さらに温度をあげてある点に達すると、結晶構造はまた壊れてしまい、ただの土くれになってしまうのです。

なぜ、こうなるのか？

これには私も頭をかかえました。

何回試験をしても、ある点を越えると、使いものにならなくなります。

このときも私は、試行錯誤を重ねたすえ、その原因がカルシウムの融解点（固体が熱せられて離解する温度）にあることを、ついに突き止めました。

格子水を抜くためにまぜたカルシウムの融解点が840度であったのです。

したがって、

低温で3時間から、徐々に温度と時間を拡大させていき、ある点前後で約50時間ほど焼くと、結晶構造が壊れず、ゼオライトがイオン化して、強烈に活性化するのです。まだまだ多くの特殊な性質を繰り返し繰り返し、根気よく継続した結果、こうして粉体ゼオライトが完成しました。

## ニワトリ150万羽の実験

ブロイラーメーカーでは、1日のひよこの入荷数が5万羽という大規模経営を行っており、1万羽のケージがいくつも並んでおりましたので、そのうちの1列の餌にだけ粉体ゼオライトを添加させてもらうことにして、何回も動物実験を繰り返しました。

育生率（商品になったニワトリの数）を他のケージと比較したり、屠殺したときの内蔵の状態を調べたり、約150万羽の統計をとったのですが、その成績はメーカーも驚くほど良好なものでした。

その一方で私は、当時の農林省東北農業試験場に頼んで、畠や田圃やハウスなどに粉体ゼオライトを使う実験をしてもらいました。

**これらの実験の結果、粉体ゼオライトが動物の飼料添加剤としても、土壌改良剤としても優れていることがわかった**ので、私は昭和四十四年からこれらを製品化し、販売に踏み切りました。

大々的な宣伝をしたわけではありませんが、ナス畑に入れたら成績がよかった、といった話題が口コミで広まり、岩手県下の農家の人たちが、わざわざ買いにくるようになりました。

こんなふうになると、私が飼料や土壌に使うためにゼオライトを研究したように思われるかも知れませんが、そうではありません。

私の研究の主目的は、あくまで天然ゼオライトの能力を高め、生理学的見地からその応用化を図ることにありました。

## 困難をきわめたセラミック化研究

粉体ゼオライトの開発中も、私は、これと平行して水向けゼオライトの研究を続けておりました。

ゼオライトの吸着能力を応用したものです。

けれども、原石を焼いただけでは、能力アップに限界があります。

《せっかく、機能性の大きな粉体ゼオライトが完成したのだから、これを水処理用に応用できないだろうか》

石にはなりませんが、かなり硬い粘土の塊になります。

この塊を水のなかに入れると、粉を直接入れるよりも水は濁りませんし、水質も悪くありませんが、時間が経つと形が崩れて、もとの粉にもどってしまいます。

《なんとか、粉体ゼオライトを硬く固める方法はないか？》

私は四六時中、そのことばかり考えておりました。

理論的には、粉体ゼオライトで丸い球（ボール）をつくり、それを焼いてセラミックスにすればよいわけです。セラミックスになればボールはもう、水中で崩壊することはないのです。

水飴や米の糊は有機物ですから、焼くと燃えてなくなりますが、その際、適当な焼き方をしますと、焼き上がったボールは、手指で押しただけでみんなつぶれてしまうのです。そうかといって、1000度以上の高温で焼くと、硬くなることは硬くなりますが、それはいわゆる瀬戸物なので、水に入れても吸着、陽イオン交換といったゼオライトの機能は、何も発揮されなくなるのです。

**要するに、焼くときの温度と時間が成否のカギを握っていたのですが、それが何回やってもうまくいかず、九九%が失敗でした。**

気がつくと、あっという間に数年が経過しておりました。  
固型化（球状）の開発は、この新工場の研究室で続けました。

しかし、

固型化は一朝一夕には完成しませんでした。  
毎日が試行錯誤の連続でした。

なにせ、火山灰などが積ってできたゼオライトは、  
もともと固まらない性質の鉱物なのです。

前にもいいましたが、1000度以上の高温で焼けば固まりますが、  
それでは瀬戸物になり、水に入れても機能しません。

ゼオライトがもっている吸着力、陽イオン交換力などの機能をそこねることなく、固型化（セラミック化）するにはどうしたらよいか、私はさらに何年間も頭を悩ませました。

そしていつの間にか、

**白い粉に興味を持った小学4年からは34年、ゼオライトの熱処理研究を開始してから、15年という歳月が流れ去っており43歳になっていました。**

あるときカキ殻を使うというアイデアも、やはり“午前三時の靈感”でした。

私は即座に飛び起きて、そのアイデアをノートに書き写しました。  
自分なりに過去の体験を参考にして整理すると、粉体固型化の方法は次のようになります。

私は粉体ゼオライトを開発する過程で、ゼオライトの結晶水を抜くためにカルシウムを加えました。

その経緯はすでに述べたとおりですが、その粉体の固型化を成功させるためには、カルシウムだけではなく、いろんな金属イオンが含まれているカキ殻をまぜる必要がある、というのであります。

もちろん、カキ殻は固体ですから、そのままでは粉体とまぜ合わせることはできません。

焼いて粉にしたものを粉体ゼオライトと混合させ、それを水飴や米の糊などを吹きかけながら回転ドラムで球状に加工し、その後に電気炉で焼成すると、その球はセラミックスとなって、つぶれることはない、というわけです。

カキ殻の成分などを専門書でくまなく調べたのは、それからでした。その結果、**カキ殻は39%がカルシウムですが、そのほか、マグネシウム、マンガン、シリカ、亜鉛、鉄、セレン、モリブデンなどのミネラルがふんだんに含まれていることがわかりました。**

これらのミネラルの効能については、**大変注目すべき効果があります。アメリカのガンコントロール協会でも、イオン化ミネラルの免疫効果について注目しています。**人間がこういう配合をつくろうとしても不可能です。

自然界だからこそ可能なことで、いわばこれは天からの贈り物なのです。

カキのほかにも、サザエ、アワビ、ホタテなどの殻も似たような成分をもっておりますが、もっとも焼きやすく、**ミネラルの種類が多いのはカキ殻**である、ということもわかりました。

## 水素還元セラミックボールの完成

カキ殻で最後の挑戦

その日から昭和55年5月まで、私は宮古から運んできたカキ殻を使って、ゼオライトセラミックスの仕上げに向けて、最後の挑戦を試みました。

最後になって、完成までに半年間もかかったのは、やはり試行錯誤があったからです。

前にも述べましたが、私には先生はおりません。熱処理や成分の分析・測定などでは、工業試験場などの協力を仰ぎましたけれど、理論や方法はすべて

大学の研究室のように、あらかじめ計算や設計を行い、結果の予想を立てたうえで実験に入る、ということは、私にはできない相談だったので、

最後の半年間もやはり、カキ殻や加工した球を焼く温度と時間の調整、ゼオライトの粉とカキ殻の粉の配合比率などを変えて、何度も何度も実験を試みなければならなかったのです。

今日焼いたものは、その日のうちにサンプリングして、工場の従業員に簡単なテストをしてもらい、そのデータを参考にして翌日の実験計画を練る、といった毎日でした。

その後、

現在までに、さまざまな改良を加えておりますから、開発当時の方法とは少し違いますが、完成した水用ゼオライトセラミックス（球状）の製造法は、次のとおりであります。

天然ゼオライトを20ミクロン程度の粉体とし、電気炉で指定温度まで約6時間かけて温度を上昇させる。

この温度を平衡で24時間焼成したゼオライトの粉体と、別にロータリーキルンを用いてさらに高温で約3時間焼成処理したカキ、ホタテなどの貝殻を粉砕し、20ミクロン程度の粉体にしたものを、ゼオライトと貝殻をある割合で混合する。

次に、

この混合粉体に対して、酸化マグネシウム、酸化カリウム、酸化ナトリウム、酸化セレン、酸化第2鉄等をさらに混合し、この混合物の粉体を有機バインダーを使用して回転ドラムで、5～8ミリ程度の球形状に加工した後、それを電気炉で焼成し、さらに高温で約48時間焼成処理する。

いささか専門的な内容で、わかりにくいかと思いますが、見た目にはなんの変哲もない小さな石の球が、実はまだまだ、たいへんな手間ひまのかかる研究を繰り返し、繰り返しおこなったのです。

こうして、念願の固型化がほぼ満足できる硬さに完成したのは、その年、昭和55年の梅雨期でした。

小さなゼオライトのボールは、手指で押したくらいではつぶれないセラミックスになっておりました。

なんとも名状しがたい興奮を覚えたのを、いまでもはっきりと思い出すことができます。

## 私自身が驚いた水素還元セラミックボールの能力

さっそく、容量1リットルのガラスビン数本にこれを入れ、水道水を注いで15分ほど煮沸してみました。

もちろん、濁ることもなく、純水のように澄んだ水でした。

さめるのを待って飲んでみたところ、まろやかで、喉にやさしい味がしました。私は翌朝、その球形セラミックスの入った水を、医薬品分析センターと工業試験場に持参して、水質のチェックを依頼しました。

検査の結果はすぐにはわかりません。

項目によっては何週間もかかるものもあるのですが、最終的にまとまった検査結果を見て、私は自分でもびっくりしてしまいました。

それが私の予想をはるかに上回るものだったからであります。

完成したゼオライトセラミックス（球形）で処理した水道水は、PH（ペーハー）値が8～10の弱アルカリ性で、しかも、カルシウムやマグネシウムをはじめ、16種類ものミネラル（金属イオン）が、バランスよく溶出された、良質のアルカリミネラルイオン水になっておりました。

このことには私はそれほど驚きませんでした。

なぜなら、そのようなミネラルバランスのいい還元イオン水をつくるのが、私がこの球形セラミックスを開発した、第一の目的だったからです。

自分が行った実験で、まず驚かされたのは、その処理水が強烈な殺菌力をもっている、ということでした。

ゼオライトに水の防腐力があるということは、鉄鍋時代の原石の粒で試験済みでしたが、球形セラミックスの処理水をビーカーに入れて、陽の当たる場所に何日置いても、水質には何の変化もなかったのです。

35度の保温器に水道水を入れておくと、2週間ぐらいで腐り始めますが、このセラミックスを2粒入れた水道水には、3週間経ってもまったく変化がおこらないのでした。

水質が変化しないということは、そこに細菌が繁殖していないということです。

つまり、

完成した球形セラミックスには、  
そうした作用をする能力、強烈な殺菌力がある、  
ということが証明されたわけでありませう。

これは私の予想をはるかに上回る成果でした。  
驚かされたのは、それだけではありません。

医薬品分析センターで行われた水質分析の結果がわかったのは、その間のことなのですが、知らせを受けて駆け付けた私は、結果を知らされて、思わずわれとわが耳を疑いました。

いや、驚いたのは私よりもむしろ、  
センターの人たちだったかも知れません。

「佐藤先生、これは大変な水ですよ。  
とにかく酸化還元電位がものすごく低いんです」

顔見知りの所員は信じられないというような顔をしておりました。

「なんだって？低いって、いくらだ？」

**「この球を入れて1週間おいたら、電位が  
マイナス220ミリボルトになっていました。」**

そして、のちにわかったのですが、

**これが、活性水素発生ということだったのです。**

しかも、

**水分子と水素は特殊な結合をしており、水素が飛んで無くな  
ってしまうことはない、活性水素水になるのです。**

「一般の水道水はプラス550ミルボルトですから、  
これは大変な水ですよ。まさしく還元水になっていますね」

**酸化還元電位がマイナス？**と聞いて、  
私はほんとうにびっくりしました。

当時、還元水（酸化還元電位がプラス160ミリボルト以下の水）は、  
電気式の製水器でしかできないといわれておりましたが、  
マイナス220ミリボルトにするとなると、  
それらの電気機器でも容易ではなかったのです。

そんな素晴らしい水を、  
私が開発したゼオライトセラミックスが簡単につくったと  
いうのですから、ほんとうに信じられない気持でした。

正直に申し上げますが、  
私は還元水をつくろう、と考えていたわけではありません。

生命にとって理想の水である羊水に少しでも近いPHのイオン水を、  
どうにかしてつくりたいと願って、水用ゼオライトセラミックスの研究開発  
と格闘してきたのであります。

# ★ 特許完成 ★

長年の歳月をかけて、ようやく完成させたわけですが、その結果、このセラミックスで水道水を処理すると、水素還元イオン水ができる、という驚くべき事実を教えられたのでした。

現在までに200件以上の特許を取得

## 還元剤の製造方法の特許完成

### 特許 第3650871号

活性水素水を作る特許の完成ということになったのです。

★ “特許” ゼオライト水素還元サプリのゼオセブン (Zeo7) ★

★ “特許” ゼオライト水素還元 水素水ボール

の技術ができあがったわけです。

しかも、

この特許 第3650871号の特徴の1つに、

**水素の加速性**があります。

“特許” ゼオライト水素還元パウダー（**免疫ミネラル®**）にお茶の粉などを混ぜ合わせると、酸化還元電位が通常マイナス150～200mvなのに、さらに水素加速が起こりマイナス400mv以下まで簡単に下がってしまうのです。（温度によってさらに、下がる）  
これは、

現在、水素サプリの業界ではない、特許 第3650871号の特徴でもあります。



## 肝臓ガンの末期の患者が退院

話は、セラミックボールにもどります。

私は、このセラミックボールを、大学時代の医学部の友人や理学部の友人など、いろいろな人に渡して、ともかく飲んでもらうように伝えました。

最初は、友人も全くわからなくて、あまりその水の効果を信用してくれませんでした。

ところが、中には、血圧が下がってきたり、体調が良くなってきた！という声がだんだん聞くようになってきたのです。

その体験は、病院に長年通っていた投薬治療の方が、どんどん状態が良くなっていく、という体験が増えていったのです。

それはそうです、活性水素が発生する水素還元セラミックボールなのです。しかし、その当時、水素なんていっても全くあいてにされません。

医療関係の知人に話しても、水治療なんて！そんなもので病気が治るなら苦労はない！とほとんどの医者は、信用しません。

それでも、一般の方の中からとても熱心に、このセラミックボールを伝えてくれる方がありました。その方が余命2ヶ月という診断をされた肝臓ガン患者が入院をしていた患者さんにこの話を伝えたのです。

「肝臓ガンの末期で、あと2ヵ月しかもたないだろう」

といわれ、手術も断われたといえます。知人から私の石ころのことを教えられたのは、そうして瀬戸際まで追いつめられたときでした。木村さんはワラにもすがらる思いで水治療を決意し、主治医の先生にそのことを話しますと、なんでも好きにきなさい、と簡単に許可されたのだそうです。

そこで木村さんは、一升瓶に石ころ200グラムを入れて水をつくり、それをドシドシ飲み始めました。文字どおり騙されたと思って、1日に一升瓶3本、5リットル以上も飲み続けたのであります。

すると、2週間ぐらいで黄疸が消え始め、あと2ヵ月といわれたその期間が過ぎても死なないどころか、入院した当時は歩くのも大儀だったのが、日ごとに元気になりました。

2ヵ月後に木村さんは退院して、間もなく社会復帰を果たしました。

## 生きることを諦めていた肺ガンの医師

久しぶりに訪ねてきた親しい友人から、

「肺ガンにやられて、自棄酒ばかり飲んでいる友達がいるんだ。きみの石ころを勧めてみたんだが、てんで駄目だ。一緒に行って、きみから説得してくれないかね」

と頼まれたのが、そもそもの始まりでした。

「どんな人なんだ？」

「東北大出身の開業医だよ」

「医者か。それは難しいな……」

私は思わずたじろぎました。現代医学では水の話はタブーなのです。

私が友人と一緒にE先生のお宅を訪ねて、

「医者たる者がガンで死ぬなんて、なんたることですか。そういうことにならないように患者を指導するのが、医者じゃないですか。あなたも医者ならば、自分を実験台にしてもこの水を試してみる、といった追求心があるはずです……」

と説得致しますと、急に態度が変わって、それほどいうなら飲んでみるか、ということになったのでした。

E先生の肺ガンは、発見されたとき、すでに手遅れになっておりました。500円玉ほどのガンが4つもあり、リンパ腺と肝臓にも転移していて、手術ができない状態でした。余命3ヵ月、よく持って4ヵ月という診断だったそうであります。

こうして渋々飲み始めたのですが、いったん飲み出すと、それはすごい飲みっぷりでした。石ころを入れた水を何本もつくらせておいて、それをガンガン飲んだのです。

おそらく、1日に5リットルぐらい飲み続けたと思います。効果が現れました。飲み始めたのは10月末ごろですが、1ヵ月後からガンが少しずつ小さくなり、翌年1月15日には片方の肺からガンのかげが消えました。そして、その年8月には、もう一方の肺のガンも消えてしまいました。

# 全国の医学部や医師会で講演

最初は、あいてにされなかった水素還元セラミックボールですが、  
少しずつ医学関係者からも信じてもらえるようになりました。

この還元力をつかった免疫療法について、東北大学医学部でこの還元力については、特にNHKのTV放映で選択的殺菌作用（O-157完全殺菌）で話題になり（P77参照）講演を依頼されるようになりました。

## 演題「還元力と免疫療法」

仙台市医師会、岩手中央県立病院、盛岡市医師会など東北中心に  
だんだん、医学部、医師会を講演するようになりました。今までに延べ  
1000回以上の講演をするようになったのです。



S-on回復システムの内容は、  
佐藤一男博士により、  
過去30年間で、全国の医学部、医師会の専門家に、

# 延べ1,000回以上

講演されてきた方法です。

全て『還元力！免疫療法について』の講演 延べ1000回以上

- ◆北海道 札幌医大 「免疫療法」
- ◆岩手県 岩手中央県立病院 盛岡市医師会  
北上県立病院 遠野市医師会 講演100回以上
- ◆宮城県 仙台市医師会 東北大学医学部  
40~50回位講演
- ◆秋田県 秋田市の医師会 20回位
- ◆山形県 山形市の医師会 山形大学医学部 10回以上
- ◆福島県 福島県立医大 20回位
- ◆東京都 東京都第1~第3医師会 葛飾区の医師会  
国立の医師会 中央区など、10区以上の医師会 100回以上
- ◆茨城県 水戸医師会 日立市医師会 北茨城市医師会 など10回以上
- ◆栃木県 宇都宮医師会 真岡市医師会 ◆山梨県 甲府市医師会 3回位
- ◆静岡県 静岡市医師会 浜松市医師会 三島市医師会 沼津市医師会  
伊東市医師会 など
- ◆愛知県 名古屋市医師会 豊川市医師会 一宮市医師会
- ◆三重県 松阪市医師会 四日市市医師会 桑名市医師会 尾鷲市医師会
- ◆大阪府 大阪市の依頼で30回以上  
総合的な還元免疫療法で 300人くらいの前で講演
- ◆兵庫県 神戸市医師会 ◆広島県 広島市医師会 三原市医師会 福山市医師会
- ◆香川県 高松市医師会 ◆福岡県 九州大学医学部（校内で）
- ◆熊本県 熊本市医師会 ◆沖縄県 琉球大学 医学部 3回位

- 国内上場企業「ドラッグストアチェーン」薬剤師の教育
- 静岡大学 大学院 客員教授 「ゼオライト学について」2年間

⇒海外では>

- バンコク マヒドール医科大学 5~6回
- 台湾 台湾大学 医学部



ここで、お伝えしたいことがあります。



以前、医師会講演では、  
水素還元セラミックボールで水をつくる、そして、この水を  
「1日に2～3リットル飲む」ということで講演してきたのです。その  
関係者を中心に延べ、軽く5000名以上のガンの治癒がおこった実績  
があります。

以前は、水素還元セラミックボールだけでした。

この水は、**分子集団が最小の50.5Hzの水**になるのでお腹に貯まらず  
す～す～っと多くの水を飲むことができます。（水道水130Hz以上）  
しかし、水素還元セラミックボールで長期間、貯め置きするのが  
めんどろ、ということと、より効果を上げていきたい目的で、  
最近では、**ゼオセブン(Zeo7)**との併用になったのです。

速効で！還元水素水を作る方法として、**ゼオセブン(Zeo7)**のカプセル  
の利用をしてもらうことで、腸にあるあいだ中ずっと還元水素を  
発生し続けていくことができるようになりました。



## 水溶性ゼオライト水 作り方

最近、米国から入ってきている  
「水溶性ゼオライト水」を聞きますが、  
この **ゼオセブン (Zeo7)** カプセルの  
パウダーを水の入った容器に入れて  
数日たてば、透明の水の部分は、  
水溶性ゼオライト水になります。



# 還元水素の抗酸化

水素は宇宙で一番、原子量の最小の原子であり、一番軽いものです。通常の抗酸化物質の数百分の一の大きさであることから、今後の可能性に大きな期待が注目されています。

また、水素は、最も毒性が強いとされる活性酸素⇒ヒドロキシルラジカルに特異的に作用することも証明されてきています。

2007.5.8 世界三大科学誌ネイチャーメディスン（電子版）に掲載

ヒドロキシルラジカルは、一兆分の一秒という瞬間に攻撃する活性酸素です。このスピードに対応できるのは還元水素だけであるといわれています。

ビタミン系やフラボノイド系の還元力は水素原子の還元力と比較すると、その効率は相当の差があります。水素は分子量1で還元用電子を与えます。

これに対し、ビタミンCの分子量は176、ビタミンEは431、カテキンは290、ポリフェノールは221、コエンザイムQ10は863の分子量ですが、還元のために相手に与えることの出来る電子は一個しかありません。

しかも、

ビタミンは、E,B,Cなど複合して電子を消化するので効率が悪いのです。

質量で比較すると、

「還元水素イオン」はコエンザイムQ10の863倍、  
ビタミンEの431倍、ポリフェノールの221倍、  
ビタミンCの176倍、  
還元力を持つという事になります。

# 水素は、宇宙一小さい

## 血液脳関門とは？

脳は、血液の供給が止まると10秒もたたない内に意識不明に陥り、数分で回復不能のダメージを受けるとされるほど酸素の欠乏に弱い臓器です。

十分な酸素を供給するために、全身の約5リットルの血流量のうちの20パーセントに当たる1リットルもの量の血液が毎分脳に送られてきます。

このように脳には多量の血液が送り込まれているのですが、有害物質が入ってこないように特殊なバリア、「血液脳関門」が途中にあります。

血液脳関門は、酸素、ブドウ糖、アミノ酸、水といった物質は通しますが、多くの薬物は通さないようになっています。

ただし、アルコールや麻薬などの一部の物質はバリアをすり抜けて脳に達し悪影響を与え、取り返しのつかないダメージを与えることもあります。

**血液脳関門は、ポリフェノールなどの分子量の大きな抗酸化物質もビタミン類も通しません。**

そのため、脳に対し非常に有効な物質は見つけれられていない状況でした。

**還元水素は、非常に小さく、この血液脳関門をたやすく通り抜けることができ、抗酸化力を発揮できる画期的な物質として注目をあびています。**

140億もの神経細胞が集まっている繊細な組織である大脳皮質の中でエネルギー代謝に伴って必然的な発生する活性酸素から脳細胞をまもることが期待できる画期的な物質といえます。

脳細胞の寿命は、20歳を過ぎるころからは1日に何万個ずつ壊れていきますが、基本的には150年も生きると考えられています。

年をとると脳細胞は減少していきますが、脳の病気などが無い限り、知能が低下することはありません。脳の働きを保つためには、過剰な活性酸素によって脳細胞が傷つけられないように、高い還元力を持った水素を有効に活用することが重要といえます。

# 選択的殺菌作用

この話は1997年7月、NHKのニュース番組〈全国版〉で放送されました。

## 病原性大腸菌O-157を完全殺菌

1997年5月以降、全国的に大流行した病原性大腸菌O-157の感染症に対する“特許”ゼオライト水素還元技術の効果

同年7月までに患者数が9016人にのぼり、何人もの死者が出る騒ぎとなりました。

とりわけ、大阪府堺市では、6500人を超える集団発生となりました。

O-157がふつうの大腸菌と異なるのは、ベロ毒素という毒素を出すことで、感染しますと、腹痛・下痢をおこし、血便が出ます。健康な成人ならば4～5日で自然治癒するのですが、乳幼児や高齢者では、出血、腎臓機能の低下、尿毒症などによって、命をおとすこともあります。

東北大学の研究グループから佐藤一男博士が病原性大腸菌O-157の殺菌効果の相談を受けました。

東北大学が東京大学から分けてもらったO-157の菌株を使って、私の研究所の研究員たちが実験を始めました。

セラミックス100グラムが入ったガラスの容器に、1万個のO-157が入った水1リットルを流し込んだのですが、O-157は完全に死滅して、“特許”ゼオライト水素還元技術の強力な殺菌力がわかりました。そして、人間に必要な乳酸菌は、増えていくので、人体にも理想的な菌の環境にすることが証明されたのでした。

この話は1997年7月、NHKのニュース番組〈全国版〉で放送されました。この時期に、NHKには、さまざま7回ほどTV放映されました。

# 殺菌作用といったら、 普通は、活性酸素のこと、 人体には悪影響を及ぼすのです。

殺菌作用といったら普通は、活性酸素の発生をします。ということは、人体に有害な影響を及ぼしてしまいます。

しかし、

“特許”ゼオライト水素還元能力は、病原性大腸菌O157、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、緑膿菌などの人体に害のある菌を選択的に殺菌します。

それに対し、

## 善玉菌増殖作用

酵母菌・麹菌・乳酸菌などの有益な菌に対しては、増殖作用を示すことができる、いわゆる善玉菌増殖作用があるのです。

**悪玉菌を殺菌し、善玉菌を増やす**ということです。

細菌学者でもまだ、解明できていないのです。

悪玉菌は、タンパク質を腐敗させて、アンモニア、ニトロソアミン、硫化水素、インドール、スカトール、ファエニンといった有害物質をつくり出します。

たまった停滞便は毒素を発生し、その部分の細胞に遺伝子変化を起こさせポリープを作り出します。

そのポリープが成長し、ガン化していくのです。

腸相の悪化は、大腸ガン、大腸ポリープ、憩室炎などさまざまな大腸の病気を引き起こすだけでなく、子宮筋腫、高血圧、動脈硬化、心臓病、肥満、乳ガン、前立腺ガン、糖尿病などの生活習慣病を発病します。

# イオン化体内活性吸収型ミネラル

## 海洋イオン化ミネラルの必要性

### <必要性－1>

現代生活は、食品添加物を利用したインスタント化が進み、体内のミネラルと結合したりと、多量なミネラルが失われます。そして、身体全体の不調、イライラ、無気力などが問題となっています。

### <必要性－2>

なぜ野菜にミネラルが減ったのか？

人間の体は、口から入れるものによってすべて創られている。

バランス良い栄養素を含む食べ物を食べれば健康体を維持できるだろうし、そうでなければ病気になる。いたって単純明快。

そのような理由で本来、ミネラルは食べ物だけで補うことで十分だったはず。しかし、**ここ50年近く**の間に、**現代農法、化学肥料農法（窒素、リン酸、カリウム）**を入れると野菜の生長は著しく良くなるので**野菜・穀物等に含まれる主要ミネラルは数分の1以下にまで減少する影響**がでている。

人体にカルシウムが不足すると、体のなかではかえってカルシウムがあふれると言う不思議な現象を「カルシウムパラドックス」と言います。

この体内にあふれるカルシウムは、実は体内のカルシウム不足を補うため、骨から大量に溶け出した物質で、これをアパタイトカルシウムと言います。

このアパタイトカルシウム（悪玉カルシウム）が高血圧、動脈硬化、心筋梗塞、骨そしょう症等の原因となり人を病気や死に至らしめることはカルシウム医学分野によって明確に判明されておりますが、その対策に有効な方法はイオン化体内活性吸収型ミネラルを摂取することだと言われております。

# イオン化されたミネラルに仕上げるために、 それぞれのミネラルの融点、沸点に合わせ、焼成

ミネラルバランスのよい水であること

昔から“水清ければ魚棲まず”のたとえがありますが、このことは科学的にみても当たっております。

なにも含まれていない純水（蒸留水や人工的に精製された純度の高い水）は、たいへんきれいな水ですが、それはおいしくもないし、そこでは生き物も生きていきません。

飲んでおいしくて、体によい水というのは、カルシウムやマグネシウムなど人体に有用なミネラル（金属イオン）成分が、バランスよく溶け込んでいる水なのです。

人体にとって理想的な水は、生まれたときの体内を占めていた水なのですが、それはまさにこのような水をいうのであります。

現在、水のなかの、ミネラルを示す指数は、カルシウムとマグネシウムの値から算出される、硬度という数値で表わされております。

日本では、硬度100以上の水を硬水、100以下の水を軟水と称しております。しかし、硬度は、水に溶解するミネラルのすべてを測るわけではありせんから、水のよしあしを判断する基準としては、物足りません。カルシウムやマグネシウムが多過ぎると、飲みづらくなったり、下痢などをおこすことがあります。

ミネラルはバランスが大切です。生体機能に有用なミネラルを必須ミネラルと呼びますが、体のなかには約60元素が存在するといわれております。そのうち、次の16元素が解明されております。

参考のために、各ミネラルの効能も書いておきますから、関心のある方は読んでください。

## <ミネラル16種類>

カルシウムCa・ナトリウムNa・鉄Fe・マグネシウムMg・亜鉛Zn・カリウムK・マンガンMn・リンP・セレンSe・ニッケルNi・モリブデンMo・クロムCr・リチウムLi・銅Cu・コバルトCo・バナジウムV

そしてミネラルが吸収されるためには、イオン化されていないといけません。

融点と沸点がミネラルは、それぞれ全て違います。

特許 第3650871号の「“特許”ゼオライト水素還元発生食品」は、16種類のイオン化されたミネラルに仕上げるために、それぞれのミネラルの融点、沸点に合わせ、焼成しておりイオン化活性吸収型ですので、吸収力は抜群になっています。

# ミネラルの働きとは

## ▼カルシウム (Ca)

生体の構成成分の3～4%はカルシウムです。

カルシウムは、たんぱく質、脂質、糖質について重要な元素で、骨の成分であることはよく知られておりますが骨のなかでも、硬い部分ではなく、やわらかい部分、つまり、骨の中心の骨髄という、血液中の赤血球を製造する部分に多く含まれ、造血作用にはなくてはならない働きをしております。

また、糖分をエネルギーに変えるときに多量に消費され、糖分が燃焼という工程でエネルギーになるとき、燃焼の触媒の役目をするのです。

カルシウムは、リン、マグネシウムなどの相互作用によって、その働きが正常になりますから、他のミネラルもバランスよく摂取する必要があります。

## ▼ナトリウム (Na)

カリウムと一緒にあって体の水分のバランスを調整し、心拍のリズムを保ちます。また、筋肉の機能を正常にし、カルシウムや他のミネラルが血液に入るのを助け、筋肉に張りを与えます。

## ▼鉄 (Fe)

鉄は、生体中にもっとも多量にある元素で、ヘモグロビン、ミオグロビンなどの色素や、種々の酵素を造る役目をしております。ヘモグロビンは、体中に酸素を運ぶ働きをしており、生体には絶対欠かすことができないものです。その他、ビタミンBの代謝にも関与しております。

鉄は、体内に吸収されると、出血以外には排出されることがないので、消費量はきわめて少ないのですが、女性の場合は、生理によって排出されるので、男性の倍も鉄を必要とします。鉄が欠乏すると、貧血になり、血色も悪くなります。貧血症は女性に多いのです。

## ▼マグネシウム (Mg)

カルシウムと同じように、骨格中に多く存在して、カルシウムが吸収されるのを助け、血液中の糖分がエネルギーに変換されるときに、重要な役割を果たしております。

また、体内の酸とアルカリのバランス、体温の調節にも関与しております。

### ▼亜鉛 (Zn)

肝臓、膵臓、骨など体内に広く分布し、たんぱく質を合成する働きがあります。血糖値を調整するインスリンの成分でもあって、血液の状態を安定的に保ち、体の酸とアルカリのバランスを維持します。また、脳の機能にも不可欠で、神経伝達やDNA合成にも関与していることがわかっております。

### ▼カリウム (K)

細胞の機能を正常に保ち、ナトリウムとともに生体の水分の調整をし、血液中のPH(ペーハー)を保持します。そのほか、体内の老廃物の排出を助長します。

### ▼マンガン (Mn)

炭水化物、たんぱく質、脂質を吸収する酵素の活性化を助けます。また、脂肪肝を予防する働きとともに、コリンの生成にも関与しております。欠乏すると痲痺症の原因にもなります。

### ▼リン (P)

体のあらゆる細胞に存在して、骨や歯をつくったり筋肉を興奮させる働きをしております。カルシウムとの関係は深く、カルシウムと結合して、リン酸カルシウムとなり、体の酸とアルカリのバランスを保っております。カルシウムとの割合は2対1(カルシウムが2)で、これよりもリンが多いと、体液は酸性に傾いてしまいます。

最近、加工食品やインスタント食品、炭酸飲料などの味付けに多く使用されるリン酸重合塩は、リンが多く、摂り過ぎによる害で、子供たちのアトピーや花粉症、高血圧やガンを含めた成人病の原因になっております。

### ▼セレン (Se)

活性酸素を消去し、制ガン効果があることがわかり、世界中でにわかに脚光を浴びております。また、ビタミンEの機能を助けて組織の皮膜を保護し、酸化を防止して酸化による組織の硬化や老化を防ぎます。若々しさを保つのに役立ち、抗炎症作用があるため、心筋梗塞や高血圧も防止します。

### ▼ニッケル (Ni)

核酸の安定に関与し、細胞膜の構造や、肝臓、心臓、生殖機能にかかわっております。

### ▼モリブデン (Mo)

すべて生物にとって必須の元素です。鉄と同様に、体が必要とする酵素を構成する成分で、炭水化物や脂質の代謝を助け、全体的に健康状態を維持します。

### ▼クロム (Cr)

三価クロムと六価クロムがあり、生体に必要な方は、三価クロムであります。六価クロムは毒性の強い元素です。三価クロムは、低濃度で広く分布していて、インスリンとともに糖の代謝を行ったり、たん白質を運んだりします。そのほか、血圧を下げたり、糖尿病を予防したりします。

### ▼リチウム (Li)

過激なナトリウム代謝に関与して、自律神経組織の機能にかかわり、カリウム、マグネシウムの働きに影響します。欠乏すると、ミネラルバランスを崩します。

### ▼銅 (Cu)

体内の鉄をヘモグロビンに転換するのに必要なものです。また、骨、脳、核酸、色素などの生成や、ビタミンCの吸収にも必要です。銅が欠乏すると、鉄と同様に、貧血、浮腫、動脈硬化、心臓障害などをひきおこします。

### ▼コバルト (Co)

生体内でビタミンBに転換されて、コバラミンを構成するミネラルです。赤血球の形成または再成に不可欠で、動物性のたん白質からは摂取することができません。

### ▼バナジウム (V)

血管にコレステロールが付着するのを防ぎ、心臓発作や脳梗塞を予防します。

これらのミネラルは、毎日の必要摂取量はミリグラム単位で、3大栄養素の蛋白質、脂肪、糖質も、ミネラルの助けがなければ正しく体内に吸収されません。「ミネラルなしではビタミンは吸収されることも、その機能を果たすこともできない」という事実を知っている方は今だに少ないのです。

**アメリカのガンコントロール協会でもイオン化吸収型ミネラルの有効性を認めガン治療にも推奨しています。**

# 体験 実例



特許“ゼオライト水素還元の商品及び『S-on回復システム』を活用して、下記のような事が起こっています。



病院から直接、佐藤一男博士に紹介されている方もあります。



⇒ **某ガンセンターや某総合病院からガンの末期で治療不可能という患者の紹介が来ています。**



⇒ **医者でガンになった方が、放射線治療、抗ガン剤を使用せず、『S-on回復システム』を実践されている。**  
(確認した方で、30名以上います。)



⇒ 『S-on回復システム』で、ガンの消滅が起こった改善例は、**5000名以上**になります。  
この内、医師、医療関係者は300名以上になります。



⇒ 『S-on回復システム』で、血糖値が下がった、血圧が下がった、アレルギー改善、肝臓機能がアップした、骨密度がアップ、体温が上昇した、傷の治りが早くなった、肌がキレイになった、・・・などの**体験は総数1万人以上**になると思います。

## なぜ“特許”水素還元セラミックによる還元水素水によって病気が治るのか

私が開発した“特許”水素還元セラミックボールと、それで処理することによって生成される還元水素水の効能と特長は、これまでの説明でほぼおわかりいただけたかと思います。

水の分子集団（クラスター）とか、酸化還元電位とか、活性酸素消去（SOD作用）とか、専門的な用語がつぎつぎと飛び出して、いささか難解に感じられたかも知れませんが、要は還元水素水で処理した還元水が、いかに人間の健康維持に役立つ“命の水”であるか、ということを理解していただきたかったのであります。

といたしましても、私の還元水素水は、多くの病気を、直接治しているわけではありません。医師が手術によってガン細胞を切除してしまうようにとか、あるいは抗生物質を投与して症状を軽くするように、病気を治療できるわけではありません。

それでは、抗ガン剤でもないのに、還元水素水を飲んだガン患者の体から、なぜガン細胞が消えてしまったのでしょうか。自然界の生き物には、ガンになったり、糖尿病を患ったり、人間がいま悩まされているような病気にかかる例はありません。

ウサギであろうと、鹿であろうと、熊であろうと、野性のままで生きている限り、成人病などで死ぬということは絶対にはないのです。本能的に自分の体内を常にノーマルに維持するための要領を、身に付けているからです。

その意味では、長期間、文明生活に慣れ親しんで、動物としての本能を失ってしまった人間は、それだけ多くの弱点を背負わされた、といえるかもしれません。

欲望のおもむくままに暴飲暴食を繰り返したり、享楽にふけったり、人工的な飲料ばかり飲んだり、ストレスの多い生活を続けたりする結果、知らず知らずのうちに体調をくずして、ガンとか、糖尿病とか、高血圧とかの生活習慣病に悩まされるようになるのです。

しかし、見方を変えるならば、人間も野性動物のように、常に生命活動がノーマルに行われるような体にしておけば、それらの病気にかからずに一生（寿命）をまっとうすることができる、といえるわけであります。

元来、人間の体には免疫機能というものが備わっていて、外部から侵入してくる異物（感染菌など）を排除できるようになっているのですが、その免疫機能の力が弱くなると、異物を排除できなくなり、さまざまな病気にかかりやすくなります。

この説明だけでは、私の還元水素水を飲んだガン患者が、なぜ健康を取り戻したか、理解しにくいと思いますので、ここでその仕組みについて、もう少し詳しく述べてみたいと思います。

人間の免疫細胞は白血球のなかにあるのですが、それには好球中、マクロファージ、T細胞という3種類があります。

好球中というのは、外部から体内に侵入する細菌やウイルスと闘って、これを殺す役目をこなしております。

この好球中でかなわないときはマクロファージが出動します。この細胞は食細胞といって、侵入者を食べてしまう力を備えているのですが、このとき、活性酸素と一緒に相手を消滅させ、無害のものにして体外に排泄するのです。

これらの免疫細胞に対して、ガンのように外部から侵入する異物が直接の原因ではない病気、いってみれば、自分自身の細胞が内乱をおこしたような病気の場合は、T細胞が出動します。

T細胞は、これまた3つに分かれているのですが、そのうちとくにNK（ナチュラルキラー）細胞というのが、内乱をおこした細胞を攻撃して退治します。

とはいっても、こうした闘いは、**体内の免疫機能がノーマル（自然治癒力が正常に働く）な状態にあってこそ可能**なわけで、免疫細胞が弱っている場合は、侵入者や内乱軍を征伐することなどできません。

好球中、マクロファージ、T細胞が本来の実力を発揮して、外部からの侵入者（細菌など）や、体内の反乱者（ガン細胞など）を、自分の体には不要のものと判断して攻撃し、これを消滅させることができるのは、これらの免疫細胞がノーマルに機能しているからこそ可能なのであります。

最後になりましたが、

それでは、生体がもともと備えているそうした免疫機能をノーマルな状態に維持させる原動力はなんでしょうか。それは、生命活動の基礎となる栄養素（たんぱく質、脂肪、炭水化物、ミネラル、ビタミンなど）と水であります。

とりわけ、

水は大切な要素です。なにせ、人間の体重の70%は水なのですから。

そして、その水が体の細胞によく調和するよい水でなければ、それらの免疫細胞をノーマルに保つことはできません。

私の還元水素水を飲んで、現代医学から見はなされたガン、糖尿病をはじめ、多くの難病が治るのは、これまで述べてきたような多くの特長を有し、体の細胞によく調和するこの水が、患者の弱っている免疫細胞をノーマルな状態に変えて、生体が本来もっている自浄能力や自己治癒力を、いちじるしく高めるからです。

その意味からも私は、

**“特許” 水素還元セラミックボールで処理した還元水素水は、文字どおりの“命の水”**である、

と自負しているのであります。

**水分子と水素は特殊な結合をしており、水素が飛んで無くなってしまふことはない、還元水素水（活性水素水）になるのです。**

理学博士 医学博士 佐藤一男



**特許**

**ゼオライト技術**

1997年 第56回

**科学技術庁長官より、注目発明選定証 受賞**

2001年 静岡県ニュービジネス大賞 受賞 還元機能性セラミックス発明

2006年 静岡県ニュービジネス大賞 受賞 ゼオライト特質応用

**特許200件以上**



“特許” ゼオライト水素還元技術をこれからの  
超高齢化に活かし、後生につなげていきたい！